

進化する大学機関別認証評価

－第1サイクルの検証と第2サイクルにおける改善－

独立行政法人大学評価・学位授与機構

独立行政法人大学評価・学位授与機構は、平成17年度から平成23年度までの第1サイクルに機構が実施した大学機関別認証評価について、アンケート調査結果と評価結果の両面から分析し、検証結果を報告書としてとりまとめた。

1. 報告書の構成

- I 大学機関別認証評価（含：選択的評価事項に係る評価）の概要
- II アンケート調査による検証
⇒ 評価実施直後に対象校及び評価担当者に対して実施したアンケート調査の結果を総合して分析し、評価の有効性及び適切性を検証。
- III 大学評価結果の分析
⇒ 評価結果において「優れた点」、「改善を要する点」とした点について分析し、当機構の認証評価の特徴を明らかにするとともに、それらの指摘から垣間見られる我が国の大学教育の現状について考察。
- IV 第2サイクルにおける大学評価基準等
⇒ 平成24年度からの第2サイクルにおける大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価について、中央教育審議会答申や第1サイクルの検証結果等を踏まえて改定した点を解説。

2. 報告書のポイント

- のべ132大学・13短期大学が認証評価を受け、うち、131大学・13短期大学が「大学（短期大学）評価基準を満たしている」と評価され、1大学が「大学評価基準を満たしていない」と評価された。
- アンケート調査結果から、評価の目的の達成度、評価の効果・影響、評価プロセスの適切性、評価に費やした作業量等について分析し、第1サイクルに実施した認証評価は概ね有効、かつ、適切であったことを示した。同時に、作業量の大きさなど、多くの改善すべき点も見出された。
- 評価結果の分析から、当機構の認証評価においては「優れた点」を積極的に評価しており、「教育内容及び方法」（基準5）、「学生支援等」（基準7）及び「教育の質の向上及び改善のためのシステム」（基準9）に関する取組が「優れた点」として多く評価されたこと、一方、「改善を要する点」として「学生の受入」（基準4、特に大学院における定員管理）、「施設・設備」（基準8）及び「教員及び教育支援者」（基準3）に関して、少なからぬ指摘がなされたことを明らかにした。
また、「改善を要する点」として指摘されることは多くなかったものの、多くの大学において共通して見られる課題（単位の実質化、内部質保証システムの構築など）について考察した。
- 第2サイクルにおける認証評価においては、中央教育審議会答申、第1サイクルの検証結果等を踏まえ、「学習成果」、「教育の内部質保証システム」、「教育情報の公表」を重視し、また、評価に費やす作業量を低減するため、大学評価基準・観点等を改訂した。
また、選択評価については、認証評価とは独立した第3者評価とし、「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を設けた。